

「幸せに暮らせる南砺市を創りたい」の思いを持つリハビリテーション専門職の皆様へ

福寿会

沿革；福寿会は1972年、特別養護老人ホーム福寿園から始まり、2014年度城端福祉会と合併し、南砺市の高齢者福祉を中心的に担う社会福祉法人となりました。高齢者のQOL向上を目的に、南砺市4ヶ所の特別養護老人ホーム（福寿園・福野、やすらぎ荘・福光、いなみ・井波、きらら・城端）を拠点に、デイサービス、ショートステイや訪問介護などを一体的に運用しています。

2014年度合併時の課題と5年間の経緯

- 1、**組織の一体化**；4拠点の一体化へ、法人全体の目的・方向性を統一した理念・基本方針・行動目標に明示し、共通認識としました。目的達成へ本部機能を強化し、4拠点の情報・人的交流を活発化し、着実に成果を挙げています。
- 2、**在宅介護力の低下と介護職不足**；増加する独居・老々世帯の生活を支える定期巡回型訪問介護サービスの構築へ、2015年度介護職員初任者研修を開講しました。多くの方々の協力で介護職が育ち、2016年度福野・井波・井口地域、2018年度福光・城端地域に定期巡回サービスを開始し、利用者・家族に喜ばれています。利用者も増加し、サービスの充実と介護職の育成に努めています。

2019年度からの目標と取組み

高齢者福祉を担う福寿会は、必要なサービスの構築と介護職などの育成に取組み、組織作りや財務の健全化などで成果を挙げています。この取組みの継続と共に、今後は福寿会の目指す「利用者の尊厳の保持と自立支援を通し、幸せな暮らしの実現」が求められます。

実現には、生き甲斐のある心地良い居場所作りと利用者の役割や出番への支援が必要です。介護支援専門員や介護職、看護職だけでは効果的な関わりが困難な面があり、利用者・家族だけでなく専門職にとっても、満足ややり甲斐を感じにくい状況になっています。

リハビリに期待する役割は、関与する専門職と共に利用者の思いを共有し、障害を正確に評価し効果的な関わりや介入方法を提案し、専門職は勿論、本人・家族や地域住民も巻き込み、利用者の思いの実現に努力することです。業務の実践や事例検討会などを通し、自立支援の成功体験を積み重ね、やり甲斐があり成長を実感できる職場を目指します。

利用者のQOL向上と専門職のやり甲斐と成長に繋がる職場づくりに、リハビリ専門職の貢献を期待します。我々と共に幸せに暮らせる南砺市づくりに是非参加してください。